

高

# 朋 友

1987



東京電機大学高等学校同窓会

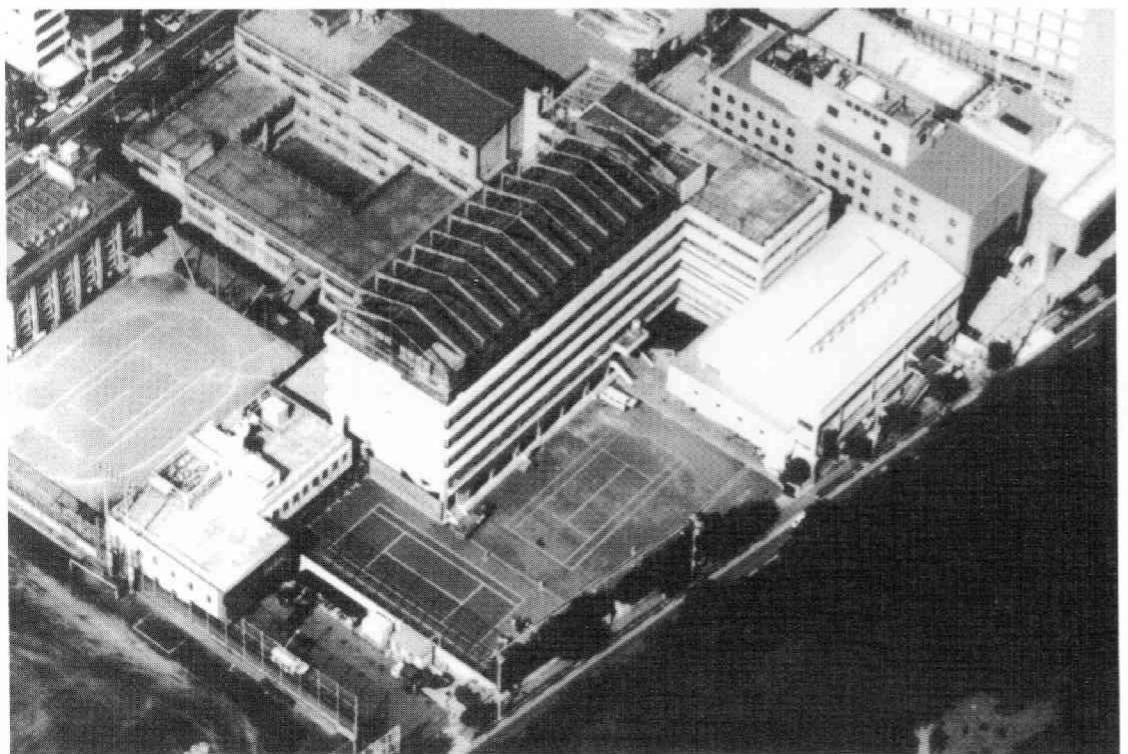
◆ ◆ ◆ 目 次 ◆ ◆ ◆

報恩	1
母校を初めとする同窓会の近況	2
東京電機大学高等学校同窓会会員の皆様へ	3
校長先生探訪記	4
学校行事紹介	8
卒業生招待会	10
〔名簿〕歴代教員	12
現教職員	14
同窓会会則及び組織図	16
クラス委員名簿	17
同窓会の活動報告	28
クラス会お祝金について	30
名簿の整備・校友会案内	31
後援会活動	32

《表紙について》

表題の「朋友」は現高等学校吉田宇一校長の直筆によるもので、同窓会幹事会において鷺見萬氏よりご提言いただいたものです。「朋友」は仲のよい友達とか友人という意味を持ち、英語での「FOR YOU」……（会員皆様方のため）という意味を持たせております。

又、表紙の「若者の像」は河部貞夫先生の作で、学園創立60周年記念と合わせ、同窓会で募金したリーフ基金及び学園、生徒会の援助により製作されたもので、小石川校舎玄関口右手におかれています。このたび本誌のため、この像の写真を基に、当時を思い出し再度デッサンをしていただきました。



《小石川校舎全景》

# 報恩

豊 宮 由

東京電機大学高等学校校長  
東京電機大学高等学校同窓会名誉会長

吉田宇一



報恩とは、恩にむくいること、他人から受けた恩を返すこと、と辞書にあります。学生時代、住込みの勤め等しながら勉学した私は、随分と他人の厄介になつたので、卒業後は何とかこの恩返しをしなければと考えていました。しかし、それはなかなかできるものではないことがわかりました。恩を受けた相手の方はいつも自分より立派に歩いておられるものでして、結局その方には感謝の気持ちを捧げながら、後進の人たちにできるだけお世話、否おせっかいをするということしかできな



いことが解りました。そこで、終戦直後本学園に俸職以来、夜間部の生徒の面倒、卒業生の就職の世話、卒業生同志の仕事の紹介等、おせっかいすぎる位にしてきたつもりだが、どれをとっても人並のことしかできていない、むしろ自分が面倒を見られてしまっているいたらくでお恥しい限りです。ただひとつだけ言えるのは、結婚の仲人の数、媒妁の数であります。その話が出るたび、もう100組を越したろうと言われます。正確な数はかぞえたことはありませんが、80組

位ではないかと思います。そのうち、本当の仲人と頼まれ仲人では半々位でしょうか。今も前よりは気を入れて心掛けている積りでありますが、昔ほどまとまらなくなりました。世の中が平和で豊かになると条件もそれだけ難しくなるように思われます。

さて、写真は5年前のPTA新聞に掲載した「記念の杉」と同じ場所の写真で、私の生れ故郷の天神様であります。PTA新聞で読まれた方は二度目になりますが、簡単に写真の意味を説明いたします。要するに天神様の杉が戦争中供出されて、境内が丸はだかになってしまったわけです。昭和20年9月、私が他人様のお蔭で工専卒業を果たしたということで、両親と私はお礼のしるしに杉苗を植えたのです。その時100本ほど植えたよう記憶していますが、境内の片側は畑に日影をつくるという理由で相当に大きくなつた頃また切られてしまったそうです。残った方は余り発育はよくないが思い出の種になっています。40数年前、杉の苗木を植えることを発案したのはおふくろでしたが、誠によい教えを残してくれたものと今になってしみじみと思うのです。感謝の気持ちを忘れてはならない事と、植樹して育てることは教育と一筋につながっていることをおふくろは杉苗を植えることで教えてくれたと思うのです。私の教育理念の原点を求めるすれば、ここらあたりにあるような気がします。

さきほど述べました結婚の仲人のこともおふくろの教えにつながっており、私なりの報恩だと思います。

この神社のすぐ傍にわが家の墓がありますので、彼岸や盆の度に杉木立を眺めながら、今は亡きおふくろと植樹した当時のことなどを懐しく思うわけです。

# 母校を初めとする同窓会の近況

東京電機大学高等学校同窓会会长

印 宮 登

## ● はじめに

同窓会員である卒業生の皆様、特別会員である教職員の皆様には、暖かいご支援・ご協力を頂きありがとうございます。昨年の同窓会活動や今年度・来年度に計画している事業などを記述して、同窓会長挨拶にかえさせて頂きます。

## ● 卒業生招待会への協力

第1回卒業生招待会が昨年11月、高等学校の主催により小石川校舎隣りの後楽園会館において開催された。招待された卒業生は、昭和17年の第1回卒業生から昭和30年3月迄に卒業された方々で、同窓会は私を始め幹事の皆さんのがホスト役として参加したが、200名を越える卒業生に圧倒され、満足なお相手もできずに終ってしまい大変申し訳なく感じている次第です。

今年度は、昭和31年から昭和40年迄の卒業生を対象として実施計画を練っております。この年度に卒業された方々には別途ご案内を差し上げますが、多数の卒業生のなかには住所不明で通知が不着の方も居られますので、お知り合いの同期生や卒業生とお説明合せの上、是非ご出席下さいます様お願い申し上げます。

## ● 準会員活動の援助

準会員（同窓会では高等学校に在校中の生徒を準会員と呼ぶ）のレベルは、年々向上の一途をたどり、在校中に電検三種、情報処理二種やラジオ音響技能検定二級などの資格を取得する者は、数年前より毎年数名いたが、61年度卒業生の中には、在校中に情報処理技術者第一種を取得する者も現れ、正に快挙と呼ぶに値する。同窓会では、これら準会員に対して、従来より卒業記念品（南部鉄製栓抜と卒業証書挿）を贈呈してきたが、昭和59年度よりは更に、これに加え体育祭において全員に参加賞の配付やクラス別対抗表彰、文化講演会の後援、クラブ活動優秀者の表彰を準会員への援助事業として実施している。なかでもクラス別対抗表彰は、当時生活指導部長の中村圭佑先生にご尽力頂き、立派なオニックス製の優勝カップ、



準優勝トロフィー、第三位の盾を製作して頂いた。また副賞として、優勝・準優勝・三位のクラス全員にそれぞれノート等を与えている。

今年度は、これらに加え準会員活動奨励という事業を創設して、電高祭展示物のなかより優秀作品表彰やクラブ活動の奨励などを計画しております。在校中に少しでも多く同窓会や校友会のことを、理解してもらえたたらと考えているところです。

## ● クラス委員の皆さまへ

クラス委員の皆さまは、クラスのまとめ役として、また同窓会と各クラスのパイプ役として、日頃大変ご協力を頂いており、誌面をお借りして厚くお礼申し上げます。クラス委員の皆さまのご意見を承る場として、例年クラス委員会を電高祭初日の夕刻に開催しておりましたが、昨年は電高祭とは全く関係のない日に、教職員・クラス委員・同窓会役員の三者を対象として懇談会を実施致しました所、非常に盛況でした。これに意を良くして今年度からは、10月に三者が一堂に会して開催するよう計画しております。

また同窓会では、高等学校卒業者名簿を昭和63年度に発行すべく、校友会に働きかけ実現を目指します。卒業生の住所確認には、クラス委員の皆様の絶大なるご協力が必須であります。その節はよろしくご協力下さいますよう重ねてお願い申し上げます。

# 東京電機大学高等学校同窓会会員の皆様へ

学校法人 東京電機大学理事長 廣川利男

高等学校同窓会会員の皆様方には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は、何かと学園に対するご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。学園もお蔭をもちまして、本年9月には、私立電機学校として神田の地に呱々の声をあげて以来、星霜80年を迎えることとなります。又、皆様方の母校であります高等学校も昭和14年創立の東京電機工業学校以来48年の歴史を重ねることとなりました。この間の限りない母校愛によるご支援、ご協力に衷心よりお礼を申し上げます。さて月日の経つのは早いもので、私が学園理事長の大役を仰せつかって早1年、改めてその責任の重大さを感じております。しかしながら、当面する私学の問題ながんずく本学園に山積する諸問題の解決に全力をもって当たる毎日でございます。遅ればせながら、高等学校同窓会会員の皆様方には、紙面をお借りいたしまして、学園理事長としての就任のご挨拶を申し上げ、より一層の絶大なるご支援、ご協力を賜りたくお願ひ申し上げる次第でございます。高等学校同窓会の活躍ぶりは、名誉会長である高等学校長吉田先生より常にお聞かせいただいているところでございます。

昭和35年の高等学校同窓会設立以来、歴代の幹事長、幹事の方々が手弁当で奉仕を重ねられ、嘗々と培かれたその精神は、現会長印宮さんをはじめとする幹事の方々に、素晴らしい伝統として受け継がれていることにあらためて、衷心より敬意を申し上げる次第でございます。申すまでもなく、学園の事業は、卒業生であります同窓会会員の皆様方の暖かいご支援、ご協力なしでは、どの様な立派な計画であっても、成功は見つかないとあっても過言ではありません。お蔭をもちまして、先般実施いたしました学園創立75周年事業も、昭和54年の高等学校のあります小石川校地隣接の都有地払下げ以来、大学においては鳩山校地に体育館の建設、大学院理工学研究科の設置、神田校地に新



校舎の建設等々総額90億円を投じ昨年3月をもって完了いたしました。同時に実施いたしました記念事業募金も目標額を上回る成果があがり、ご協力いただきました同窓会会員の皆様方にあらためてお礼を申し上げます。ありがとうございました。社会は刻々と変貌を遂げております。一刻の猶予もなく動いております。正に激動しているといえるでしょう。その変化の波は、学園にとりまして（これは、私学全体にとって）非常に厳しい経営環境となりつつあります。ご承知のとおり、進学人口の急減期が参ります。高等学校では昭和64年以降がその時期で、かなり厳しい競争社会に突入いたします。学園もこれに対処すべく、高等学校においては吉田校長以下全教職員が一致協力して、目前に迫りくる21世紀に羽ばたく人材の育成にあたる特色ある学園として充実発展する方策を検討、着実に実施しつつあります。しかし、何といっても諸施策を遂行する為には、財政の裏付けが必要です。この為、現在学園では、学術研究振興基金募金・教育振興協力基金募金と2つの募金活動を実施しております。ご協力をお願い申し上げます。何と申しましても私学の発展は、学園と卒業生、在校生御父母との協力の如何に大きく左右されます。より一層のご支援、ご協力をお願いするとともに、高等学校同窓会並びに会員の皆様方の益々のご発展をお祈り申し上げます。

# 清水先生こんにちは



◆先生のニックネームは何でしたか？又その由来をご存知でしたか？

私のあだなは何とつけられたのか、わすれました。今尚印象深く残っているのは第1回生だったか、"ダットサン"とつけられたことです。それは学校が引けて帰るときの歩き方が早く、ぐづぐづ歩いてる生徒を追いかけて一直線に駅に向うので、生徒たちは、今追いつけて行ったのは誰かとその後姿をたしかめると、私だと分かったので、何時の間にか御茶の水方面に帰る生徒達が、當時流行した小型の自動車、ダットサンのようなので、私に"ダットサン"とあだなをつけたらしい。

◆授業をしていて一番楽しかった事、苦しかった事はどんな時でしたか？

授業中の楽しかったこと苦しかったことは沢山ありますが、ここでは小石川校舎を建てる時の思い出を書いてみたい。この校舎は五階建だがエレベーターがなく、各階の教室の外側には、すぐ出られるベランダがある。これは若いものには階段をつかって運動させたい、授業と授業の休憩時に外の空気を吸い、気分転換させたい心づもりだった。ところが、当時の学園の理事会で反対された。「生徒がベランダに出て落ちたらどうするか」といはれ、これを説得するのにとても苦しんだ。

◆修学旅行での生徒との思い出で印象に残っている事は何ですか？

生徒を引率して四国に旅行した時、大阪港から高松に渡るのに大阪商船を利用した。昭和20年の半ば頃、例の紫雲丸事件があり船の利用には一段と注意をはらっていた。先ず、生徒を港の岸壁に整列させといて、先生方が乗船して船内を点検した。ところが浮袋が見当らず、捜したところ釘で打ちつけた戸袋の中にはあった。船員に言って出させた所、ねずみが食い荒っていてボロボロ。我々の厳重な抗議に船長も平あやまりし、生徒の乗船をたのんだ。この間、電大高生徒は整然と先生の指示を待っていた。



◆補講ではどんなエピソードをお持ちですか？

補講は、生徒もあまり気乗りしないようなので、実社会に出た時役立つような事を折りませ話をした。例えば、数学の補講では、円錐体の体積は円の面積に高さを掛けて、その3分の1だからよそで飲物を出されたら、その入れ物を先ず見ろ、円錐形だったら中身は、同じ高さの円筒形の3分の1しかないのだから、そのつもりで飲め。喫茶店でジュースを注文しても、円錐形の入れ物だったら、たとえしゃれた容器でも実質的には3分の1しかないのだからよく注意しなさい。

◆家庭の中での先生、町を歩いている先生はどんな人柄ですか？  
(奥様より)



狭い道で自動車が、我の顔に通ったりすると、ステッキをふりふり歩きます。一緒に歩いているとハラハラすることが多く、時々私は、連れではないというふうに遠くに離れて知らん顔をしています。とても付き合いきれないと思います。電車の中でも、足を長く投げ出して座ってる人がいると、足でけるとかステッキで小突いたりします。難くせてもつけられないかと心配ですが、私の言うことなど耳も貸しません。でも、ちょっとかぜなどひくと、すぐ死ぬ死ぬと大げさに言って子供みたいになります。

# 清水先生おぼえていますか？

◆久津功（昭和23年3月 第一工業卒業）



私の一工在学は昭和18年から23年の戦中、戦後の混乱期で食糧難で学校が臨時休校になる時代でした。担任の清水先生は夏休みを利用してクラス全員の家庭訪問をされました。私は千葉市稲毛に住んでいましたが、当時は東京から電車の切符がすぐに買えないところでした。暑い晴れた日、先生はお見えになり両親と話をしましたが、弁当持参でお茶だけしか飲まず、お土産は絶対お断りと云うわけで、訪問先の家庭には絶対に迷惑はかけない方針で徹底されていました。お帰りに駅まで一緒に歩いたのが印象に残っています。

先生、お元気でお過し下さい。

◆賀富士弥（昭和23年3月 第一工業卒業）

戦後の3年間のクラス担任であった清水先生に、当時我々悪童はひそかに「金ちゃん」の愛称を奉っていた。それは、その頃の一時期を風靡した通称「金ちゃん」と清水金一というコメディアンにあやかって清水先生をついそのように呼ぶようになったのだが、そんな或る日のこと、平素、茶目っ氣の多い級友の石井勇治君が教室に入ってきた清水先生を迎えて「金ちゃん、待ってました！」と大声でやってしまった。一瞬、教室内には呆気にとられた沈黙が走り、すぐ爆笑に変ったが、そのあと清水先生の雷も落ちることなく授業が進んだことだけが不思議と記憶に残っている。そして「金ちゃん」事件の主犯、石井君は3年前に東電浦和営業所長を最後に故人となつたが、喜寿を迎えて清水先生が益々お元気なことは、教え子の一人としてこの上なく嬉しいことである。



◆吉田宇一（現高等学校校長）

昭和14年4月、東京電機工業学校が開校されて私どもが夜間部に入学した時、清水先生は20代ではなかったでしょうか。1、2年の担任は橋本健之助先生で、3、4年の担任が清水先生で大変お世話になりました。学校を出でからも上司として、今だに厄介になっているわけあります。先生に最初に叱られた思い出は修学旅行先でした。第二次大戦もたけなわの昭和17年、京都、奈良の修学旅行も戦中では最後の機会ではなかったかと思います。門限におくれて布団の上に起立させられ説教されて、付添いの坂田教官に逆なぐさめられたものでした。その後も先生は同窓会やクラス会毎にどなります。今になっても担任の先生に叱られている感じがしますが、お歳とともにそのどなり声の中にも、何となく懐しさと暖かさを感じるような今日この頃です。



## 池田先生こんにちは



◆先生のニックネームは何でしたか？又その由来をご存知でしたか？

『あなたのニックネームは（これこれ）だ』と誰からも聞いておりませんので、皆さんからどんなあだ名を載っているかは、実は私にはわからないのです。ひそかに漏れ承るところ古くは、ゴレム、ジャンギャバン、最近はホメイニなどを耳にしますが、一般的に言って姓名の一部を取っていう場合が多いので『イケチャン』、『イッチャン』が私のニックネームではないでしょうか。ご存知の方はコッソリ教えて下さい。

◆授業をしていて一番楽しかった事、苦しかった事はどんな時でしたか？

私の教員生活は昭和11年秋、助手見習が振り出します。当時、始めて電機学校に甲（電気科担当）と乙（電子科担当）ができ、私は乙の第1回の卒業です。それから教員で今日までですので大変長い期間になるわけです。

従いまして、いろいろな科目を担当した経験がありますが、同僚の先生は「お前の授業は演説だ」と批評されました。時代の変遷で学科閉鎖の直前のクラスを担当したときは、さすがの私の演説も悲しいかな通じませんでした。

◆修学旅行での生徒との思い出で印象に残っている事は何ですか？

本学の高校には普通科と工業科のあるのはご承知の通り。一学年合計500名の大規模校のためか、L科とT科の修学旅行は、春と秋、東と西、北と南などの食い違いがある。私も何回か修学旅行に同行したが、高校生活の最も楽しい思い出であるので、自主的とし規制はなるべく避けた。宇高連絡の船中で見知らぬある人が私に『あなた、この生徒さんの先生ですか、本当に羨がいいですね』私は嬉しかった。旅行中の朝礼で全員に報告し、ガンバローと誓いました。



◆実験の授業でどんなエピソードをお持ちですか？

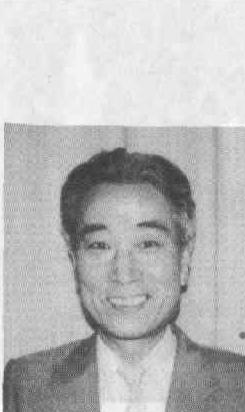
なにせ古い人間です。駆け出しの頃は弱電実験、終戦を境に強電に移りました。故高田勇次郎先生から強電実験の教科書を書けとのご命令です。高橋源八先生と共に著しましたが、私としては処女作です。随分と一所懸命、骨を折り、数回所オリジナルを入れたつもりです。それはいつ頃かと、いわぬ方が無難でしょう。その頃は検流計を使う実験が多かったのですが、壊されることが度々、メーカの修理は間に合わず、自ら懸垂線の張り替えなど苦労の思い出が心に残っています。



◆家庭の中での先生、町を歩いている先生はどんな人柄ですか？  
(奥様より)

とにかく“まめ”に動く人です。朝6時頃起きて、まず車で30分～1時間ドライブをします。(皇居一周・靖国神社・浅草寺等)帰って家の回りの掃除をし、朝食となる。時には、パソコンに夢中になり、また読書をし、居眠りをし、桜が満開になればカメラを持って出かけ、10年前の身体の不調が嘘のようなこの頃です。いま年1回の海外旅行と鎌倉巡りを夫婦2人で楽しんでいます。今後ともよろしく。

## 池田先生おぼえていますか？



鷲見 篤 (昭和23年3月 第二工業卒業)

池田市寿先生には、同窓会の総会などで、ときどきお目にかかります。お元気でなによりと思っております。お顔を拝見しますと、40年前に電気機械を教えて頂いた頃の先生を思い出しますね。あの頃、先生は30歳くらいでしたか？先生の中で、池田先生の授業は分かりやすい方でしたが、生徒が分からずやなので、教育効果の程は、どれ程でしたでしょうか。多分先生も、僕らの顔を見ながら、教えて無駄だと思ったのではないかでしょうか？最後に当時（私と16歳）の感想を一言……先生は眉が太くて頬がちょっと膨らんでいて、大黒様が授業をしているような感じでした。他の生徒は、どう思ったでしょうか。

宮崎 登 (現高等学校教頭)

私が電気科実験室にいた頃、特に印象に残ったことが二つありました。その一つは、先生が昭和46年に高等学校の教頭として赴任された時の事であります。工業科の生徒諸君に電気工事士、電検3種等の各種資格取得の奨励がありました。この奨励によって、先生方は放課後に徹底してその指導を推進し、徐々にその成果を上げ、現在では、工業科の大きな特色になっています。今後も職業資格の取得のための準備学習が大切になると思います。もう一つは、先生が校長を退任される昭和53年3月のことでした。これから情報化社会に備えてコンピューター教育をと、電気科に初めてコンピューターを導入し、その後、年次を追ってコンピューター教育を充実いたしました。この二つの事柄が、現在の教育に大きく貢献しております。



津村 栄一 (現高等学校教諭)

私が、本校に奉職した当時の校長が池田先生でした。奉職当時、先生には「君は、まだまだ勉強が足りんよ。」とよく言われました。その言葉が何を意味するのかを何度も考へ、今日も反省させられております。ある時、電気事業法に関して悩んでいたところ、「それは…条…項だよ。」と即座に教えられて驚嘆したことがあります。たゆまず学ばれている姿に敬服したものでした。また、ミニコンP6060の実験への導入、高電圧配電盤による設備に対する実習、先生の経験に基づく資格試験の導入による教育、に対しては特に厳しい教育姿勢で臨まれ、生徒と共に教師も学び、汗を流してまいりました。これらが、現在の電気科の特色ともなっております。マクロ的に観て、ミクロ的に思索し、導く大切さを教えられたように思います。



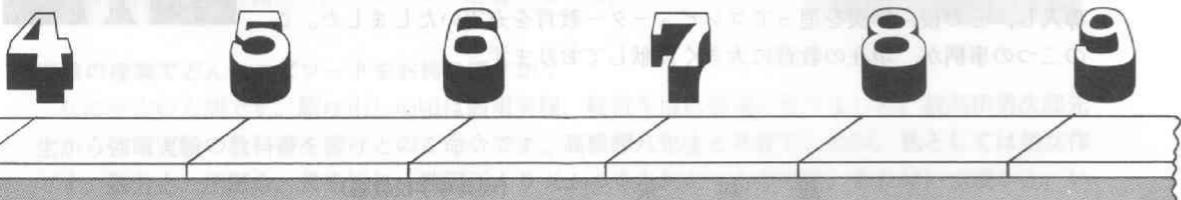
# 学校行事紹介

授業だけが高校生活のすべてではないはずです。本校では、さまざまな特別教育活動を通して、健康で明るい生徒を目標として指導しています。

1年生は、7月から8月にかけて、山梨県八ヶ岳山麓の清里にある山の家に合宿します。また2年生の時、体育必修授業として、水泳、スキー、スケートのいずれかの自然コースを受けることになっています。特に水泳は、本校が目標としている水準に達していない生徒をつれていき、その結果、本校の生徒は全員泳げるようになります。

このほか、クラブ活動・電高祭・体育祭・球技大会などが、生徒の自主的な運営のもとに活発に行われています。

著名人の話を聞く文化講演会、映画鑑賞、江戸川土手15kmの踏歩大会などは、本校独自の行事といえましょう。

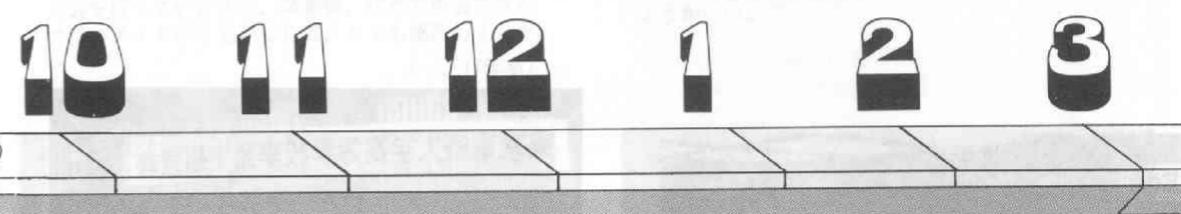
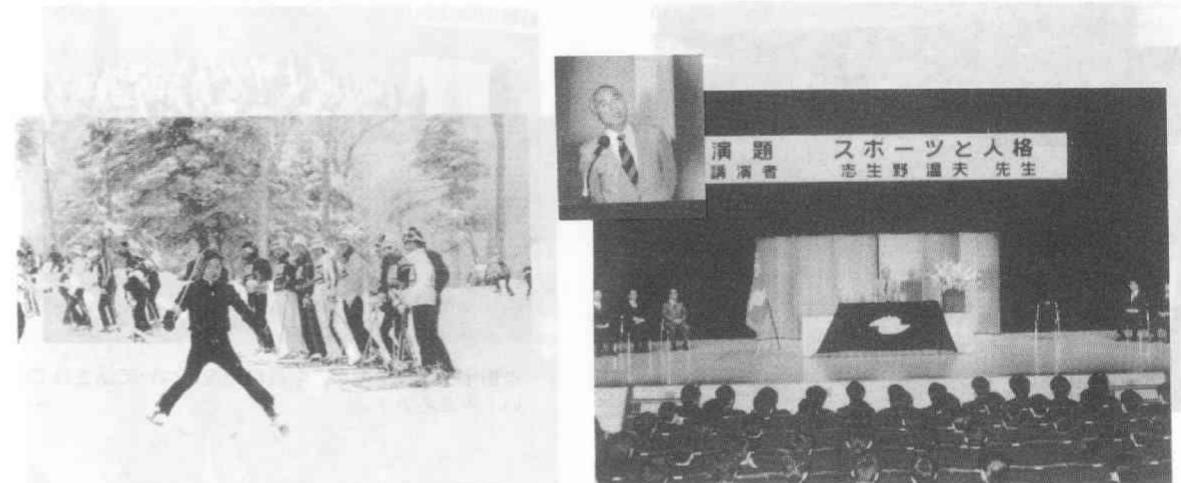


入学式

- 修学旅行（二年普通科）
- 球技大会

- 山の家教育キャンプ（一年生）
- 自然コース・水泳（二年生）

● ホームステイ



● 体育祭

● 修学旅行（二年工業科）

- 自然コース・スキー・スケート（二年生）

- 踏歩大会
- 映画鑑賞会
- 卒業式

# 卒業生招待会

## 第1回

昨年11月1日（土）に後楽園会館（高等学校隣）におきまして、第1回卒業生招待会が盛大に催されました。今回は昭和17年から昭和30年3月までに本高等学校をご卒業になられた方が母校から招待されました。

出席者が240名を数えるほどとなり、当初の予定数を越え、写真からわかりますように会場が手狭となり、嬉しい悲鳴となりました。

多数のスナップ写真の中から、当日会場内の雰囲気のわかりやすい写真を何枚か載せてみました。



各卒業年度ごとに分かれて受付をしました。



吉田宇一校長先生が、学校の現況について話されているところです。



池谷武雄元校長先生のご発声で乾杯をした後、歓談に入ったところです。



川村長治さん（後列右から2人目）の感想

7～8名のクラスメイトが参加していましたが、長い年月が過ぎたためか、思い出すのに時間がかかりましたが、懐しく話ができました。（二工22年卒）



会場内の料理も準備が整い、受付を済ませた方々が会場内に入場されているところです。



・竜沢良雄さん（左から2人目）の感想  
当日は、同期生の鈴木治郎先生と私の右隣に居た中山氏だけしか、顔が知らないだったのでちょっと寂しかった。今後も多数の卒業生を集めて、この様な会を開催して下さい。（一工24年卒）



・横尾与四郎さん（左端）の感想  
11名のクラスメイトが参加していました。毎年クラス会を行っていますが、卒業後、初めて再会できたクラスメイトが1名いまして、とても感激しました。  
(一工17年卒)



出された料理に舌鼓をうち、学生時代の出来事が1つ2つと思い出され、それを噛み締めているのでしょうか……。



P T A新聞「いなづま」の縮刷版（創刊から100号まで）や資料が、出席者全員に渡され、その説明を聞いているところです。



・加藤正樹さん（左から3人目）の感想  
私達のクラス会は、1年に1回、10月の第1土曜日と決めて毎年休むことなく続けていますが、今回は非常に面白い試みで良い企画でした。（高校26年卒）

# 同窓会会則及び組織図

## 第1章 名称及び事務所々在地

第1条 本会は東京電機大学高等学校同窓会と称す。  
第2条 本会は事務所を東京都千代田区神田錦町1-4  
東京電機大学校友会内に置く。

## 第2章 目的

第3条 本会は会員相互の親睦を図り併せて会員と母校との連繋を密にし東京電機大学校友会の事業遂行に協力するを以って目的とする。

## 第3章 会員

第4条 本会の会員は特別会員、正会員、準会員よりなる。

2 特別会員は東京電機大学高等学校の教職員及び本会に特に功労あるものにして幹事会の推薦によるもの。

3 正会員は東京電機大学高等学校、東京電機工業学校、電機第一工業学校、同併設中学校、電機第二工業学校、同併設中学校、電機学園高等学校の卒業生とする。

4 準会員は東京電機大学高等学校の在学生とする。

第5条 特別会員、準会員は議決権、選挙権、被選挙権を有しない。

## 第4章 役員

第6条 本会には次の役員を置く。

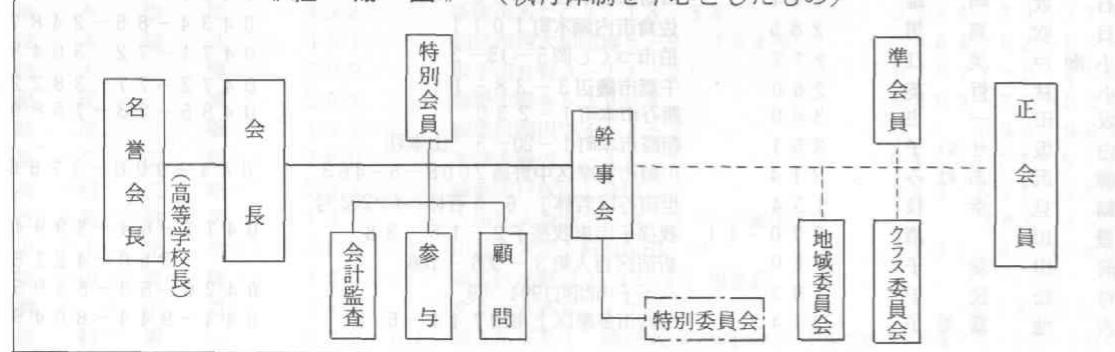
- 一 名誉会長1名
- 二 顧問若干名および参与若干名

三 会長1名、副会長2名、及び幹事25名以上50名以内、会計監査2名

四 クラス委員を各クラス2名、地域委員を各地域同窓会1名をおくことができる。

—以下略—

## 《組織図》(執行体制を中心としたもの)



## 第5章 会合

第9条 総会は毎年1回会長はこれを召集し本会の事業経過計画案、幹事及び会計監査の承認、収支決算予算案の報告並びに議決をおこなう。

—以下略—

## 第6章 会費及び会計

第13条 本会に入会するものは入会金1,500円を納入するものとする。

2 本会の会費は東京電機大学校友会費の納入を以てこれを認める。

第14条 諸会合に要する経費は、その実費を徴収することができる。

第15条 会計監査は、本会の会計を監査する。

第16条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

## 第7章 会則の改正その他

第17条 本会則の改正は総会の議決を要す。

—以下略—

## 付 則

1 略

2 昭和56年6月27日全面改正

昭和57年6月26日第13条一部改正

## 東京電機大学高等学校同窓会会則細則

第1条 名誉会長には東京電機大学高等学校長を推戴する。

2 顧問は特別会員の中から、参与は会員の中から幹事会にて推薦する。

3 会長及び副会長は幹事会の互選で定める。

—以下略—

# クラス委員名簿

## ◎学校の沿革

電機第一工業学校  
(東京電機工業学校)

設立 昭和14年4月  
廃止 昭和24年3月

初版 昭和49年4月  
第1回改定 昭和50年4月

電機第二工業学校

設立 昭和19年4月  
廃止 昭和24年3月

第2回改訂 昭和51年4月  
第3回改訂 昭和52年4月

電機学園高等学校

設立 昭和23年4月

第4回改訂 昭和53年4月  
第5回改訂 昭和55年4月

東京電機大学高等学校

設立 昭和31年2月1日  
校名変更

第6回改訂 昭和56年4月  
第7回改訂 昭和58年4月

## ◎東京電機大学高等学校同窓会

設立 昭和35年4月17日

所在地 〒101 東京都千代田区神田錦町1-4

電話 03-294-1551(代)

社団法人 東京電機大学校友会

## ◎東京電機大学高等学校

所在地 〒112 東京都文京区後楽1-7-26

電話 03-813-6911(代)

## ◎校友会・学校の組織



## 校友会事務局



学校・学科・年次別卒業者数一覧

卒業年次	電機第一工業学校				電機第二工業学校				小計		合計		
	第1本科		第2本科		併設		第1本科		第2本科		併設		
	電気科	機械科	電気科	中 学	電気科	機械科	機械科	中 学	電機第一	電機第二	工业学校	工业学校	
	E	M	E	J	E	M	M	J	工业学校	工业学校			
17			89						89		89		
18	51		85						136		136		
19													
20	100		91						191		191		
21	58		48						106		106		
22			100		132	50			100	182	282		
23	53		106	161	78	26	8	243	320	355	675		
24	117	26	65	359	190	46			567	236	803		
中 計	379	26	584	520	400	122	8	243	1509	773	2282		

卒業年次	全 日 制						定 時 制						小計		合計		
	電 气 科						電 气 科										
	電力課程		電気機器課程		電気通信課程		電気計測課程		電力課程		電気機器課程		電気通信課程				
	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	E <sub>3</sub>	E <sub>4</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	C <sub>1</sub>	C <sub>2</sub>	I	E	M	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	M	C		
24									94	10					104	104	
25	54	52		64	39					42	44			209	86	295	
26	48	48	51	49	52	45				49	47	27	60	293	183	476	
27	51	50	50	46	43	53				40	46	50	37	293	173	466	
28	56	57		51	50					53		38	64	214	155	369	
29	50	37		62	55	29			49		41	39	233	129	362		
30	55	53		36	44	54	38			55		30	40	280	125	405	
31	55	49		59	58	56	33			50		28	57	310	135	445	
32	52	54		49	59	60	38			73		41	51	312	165	477	
33	56	59		55	63	48				55		36	64	344	155	499	
34	61	66		62	51	54	60			49		41	44	354	134	488	
35	56	59		52	60	65	56			59		48	54	348	161	509	
36	62			55	61	60	52			67		51	60	290	178	468	
37	62			64	61	64	66			73		65	65	317	203	520	
38	58	61		67	63	60				70		57	59	309	186	495	
39	60			49	56	53	54			62		53	55	272	170	442	
40	65			65	63	67	57			51		35	58	317	144	461	
41										47	47		52		146	146	
中 計		1696	975	1433	591	94	10	1128	641	859	4695	2732	7427				

卒業年次	全 日 制						定 時 制				小計		合計	
	電 气 科			電 子 科		機 械 科		工 業 計 測 科		電 气 科		電 子 科		
	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	E <sub>3</sub>	D <sub>1</sub>	D <sub>2</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	I	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	D	全日制	定時制	
41	68	66		69	69	54		62				388		388
42	54	56	50	64	59	52		56	42	39	47	391	128	519
43	56	54		58	54	54		55	48	41	37	331	126	457
44	61	64		67	64	68		56	64		64	380	128	508
45	61	60		51	55	48	49		47		21	324	68	392
46	66	63		62	64	55	55		47		20	365	67	432
47	56	55		58	49	58	59					345		345
48	50	51		52	52	53	53					311		311
49	56	57		51	51	52	49					316		316
50	55	52		61	62	49						279		279
51	52	50		43	50	48						243		243
52	59	59		58	56	50						282		282
53	60	56		59	66	56						297		297
54	51	55		49	51	52						258		258
55	50	47		56	55	43						251		251
56	49	50		49	51	51						250		250
57	54	54		57	55	48						268		268
58	50	47		51	54	53						255		255
59	51	53		54	51	50						259		259
60	50	50		43	43	50						236		236
61	54	52		50	53	54						263		263
62	49	52		54	52	46						253		253
合 計		2465		2442		1409		229				6545	517	7062

## 学校・学科・卒業年次別担任・クラス委員一覧

卒業年次	全 日 制					合 計	
	普 通 科						
	L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>3</sub>	L <sub>4</sub>	L <sub>5</sub>		
27	37					37	
28	30					30	
29	39					39	
30	47					47	
31	58					58	
32	42					42	
33	50					50	
34	50					50	
35	60	55				115	
36	55	54				109	
37	55	53				108	
38	51	55				106	
39	59	56				115	
40	63	64	60			187	
41	63	64	63	65		255	
42	60	63	64	62		249	
43	58	56	58	58		230	
44	60	53	53	51		217	
45	55	57	57	57		226	
46	54	54	54	57	54	270	
47	49	50	50	49		197	
48	54	54	54	53		215	
49	52	55	55	48		207	
50	51	51	51	51	50	253	
51	53	54	54	52	42	254	
52	52	53	53	51	52	262	
53	52	53	53	52	52	260	
54	55	56	56	56	49	271	
55	54	55	55	54	50	266	
56	47	49	49	49	47	241	
57	53	54	54	52	48	258	
58	51	51	51	51	52	255	
59	51	49	49	50	51	251	
60	47	46	46	45	43	227	

卒業年次	全 日 制						合 計	
	普 通 科							
	L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>3</sub>	L <sub>4</sub>	L <sub>5</sub>	L <sub>6</sub>		
61	46	47	45	47	47	46	278	
62	54	53	54	54	52		257	
合 計	1867	1498	1238	1164	689		6492	

高等学校は学制改革による、校名変更や学科名変更等により、複雑なクラスが複数になっております。

各クラス委員は、現在416のクラスがありますが、約80クラスの委員が決定していません。まだクラス委員の決定していないクラスの皆様は是非この機会にクラス委員を決定していただけるよう御協力御願い致します。

また、昭和57年より高等学校同窓会会則改訂により1クラス、2名のクラス委員となりました。現在は各クラスとも1名ですが2名へ移行できるよう御願い致します。

クラス委員は、クラスの各人と高等学校同窓会とのパイプ役であり、しいては校友会や高等学校との連携を密にするものであります。

これらも皆様の御協力があって成り立っているものです。  
クラス委員の変更なども校友会まで御一報下されば幸いです。

表は次のように見て下さい。

吉田 宇一
24
小竹 四郎

左図のように卒業年次の上段がクラス担任  
下段がクラス委員となります。

卒業年次	電機第一工業学校				電機第二工業学校				併設中学		
	第1本科		第2本科		併設中学	第1本科		第2本科			
	電気科	機械科	電気科	機械科		電気科	機械科	機械科			
	E	M	E	J		E	M	M	J		
17			稻垣 忠雄								
18			佐々嶋長治								
19			堤 良富	清水 明							
20			渡辺 和正	豊田 健造							
21			清野 明夫	作道 兵次							
22			倉持 悅久	中村 政雄							
23			服部 三郎					加藤 高治			
24			粟屋 昭								
			清水 明	吉田 宇一				磯部 直吉			
								原口 喜八			
								深海 登世司			
								金森			
			青木 仁	蛭間 恵治				早川 喜知	伊藤 克己		
			清水 明	首藤 富家	吉田 宇一			原口 喜八	首藤 富家		
			中田 勇	常広 武雄	鈴木 治郎			戸井田 豊			

卒業年次	定 時 制					
	電気科	機械科	電 気 科			
			電力課程		電気機器課程	電気通信課程
	E	M	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	M	C
24	吉田 宇一	伊藤 克己				
	小竹 四郎	横山 実				
25		服部 三郎	吉田 宇一			
		鈴木 治郎				
26		鈴木 徳三	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八	
		荒井美喜男		小沢 位		
27		横田良次郎	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八	
		駒形 昌雄		小林 建雄		
28		河部 貞夫		首藤 富家	森田 恒久	
		佐藤 守弘				
29		鈴木 徳三		首藤 富家	角田 秀夫	
		関根 章		北風 康夫	森 真	
30		河部 貞夫		横田良次郎	板垣 光夫	
		宮田 利一		松本 和夫	菅野 敬弘	
31		小針 藤男		首藤 富家	角田 秀夫	
				大沢 和夫		
32		河部 貞夫		大渡 正治	板垣 光夫	
		茂木 実		吉川 洋		
33		小針 藤男		大渡 正治	角田 秀夫	
		尾身 亀吉		与儀 正久		
34		角川 一治		小針 藤男	中島 輝夫	
				椎津 利雄		
35		角川 一治		大渡 正治	中島 輝夫	
		高島 清淳			池田 恒男	
36		桜井 松治		横田良次郎	中島 輝夫	
		野村 力男			浜川 坦	
37		杉野 良知		桜井 松治	横田良次郎	
		石崎 泰司		黒田 忠治	宮城 一治	
38		杉野 良知		下崎 和彦	大江 康男	
		上倉 幸男		安藤 忠	中山 勇次	
39		大江 康男		吉田 宇一	白川 守昭	
				坂本 寛		
40		吉田 宇一		下崎 和彦	松岡 三夫	
		見崎 正行	則友 克敏		長谷川裕一	
41					小杉 喜美	

卒業年次	定 時 制		
	電 気 科		電子科
	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	D
42	横 将	山崎 修快	鈴木 治郎
43	高久 広毅	人見 芳行	鈴木 治郎
	加賀 勉	厚谷 豊	井筒 幸二
44	鈴木 治郎		人見 芳行
	大石 四郎		
45	人見 芳行		鈴木 治郎
	金子 英司		
46	鈴木 治郎		鈴木 治郎
			石川 秋男

卒業年次	全 日 制							
	電 气 計 测 課				電 气 計 测 課			
	電 力 課 程		電 气 機 器 課 程		電 气 通 信 課 程		電 气 計 测 課 程	
E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	E <sub>3</sub>	E <sub>4</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	C <sub>1</sub>	C <sub>2</sub>	I
25	高橋 源八	岩佐 徹			首藤 富家		角田 秀夫	
	中田 勇	戸井田 豊			常広 武雄		森山 満隆	
26	野口 茂	大江 康男	吉田 宇一	加藤 高治	佐藤 善慶		中島 輝夫	
	加藤 正樹			中島 政良	山川 保		早川 宏	
27	平野 三郎	大渡 正治	林 六郎		中沢(齊藤)実	板垣 光夫	桜井 松治	
	新井 昭男	岩田 慶一	小島 輝一		今井 昇	横山 真一	野瀬 健一	
28	野口 茂	角田 秀夫			桜井悌二郎		鈴木 藤男	
	橋本 光男	青木 良造					渡辺 正行	
29	小西 吉孝	佐藤 善慶				中沢(齊藤)実		伊藤 克己
		渡辺 勉					荻野 宏泰	尾島 崇弘
30	林 六郎	神庭 明			大渡 正治	吉田 宇一	桜井 松治	大江 康男
		石塚 武夫			小野 栄一		柴山 茂男	保坂 弘
31	杉野 良知	野口 茂			鈴木 徳三		吉田 孝俊	伏見栄治郎 伊藤 克己
	原口 尚久						森 健輔	坂井 孝志 小長谷 登
32	角川 一治	桜井悌二郎				中沢(齊藤)実	中島 輝夫	寺尾 功吉 佐藤 善慶
	倉林 純一						増田 克己	柳 博 松本 徳孝
33	板垣 光夫	渡辺 明			吉田 宇一		桜井 松治	横田良次郎 大江 康男
	飛田 健靖				後藤 隆夫			
34	杉野 良知	鈴木 徳三			中沢(齊藤)実		野口 茂 吉田 孝俊	伊藤 克己
		高橋 清			松下 祐輔			中野 善夫
35	佐藤 吉弥	吉田 宇一			鈴木 治郎		角田 秀夫 佐藤 善慶	大江 康男
	北村 義明	名古屋 勲			鈴木 整司			見崎 正行 渡辺 黎一
36	板垣 光夫				小針 藤男		佐藤 善慶 白井光太郎	伊藤 克己
							日比野靖昌	藤田 安彦
37	野口 茂				齊藤 広吉		大渡 正治 角田 秀夫	石川 孝志
	荒井 義久						柳田 佳孝 橋溝 邦彦	
38	大田 健	吉田 宇一			横山 実		鈴木 治郎	伊藤 克己
	形屋 憲一	佐藤洋志郎					細田 勝久	鶴見 勝義
39	中島 輝夫				小針 藤男		高木 正夫 白井光太郎	渡辺 太
							三橋 廉二	渡辺 正行
40	中村 広幸				齊藤 広吉		桜井 松治 菊地 聰	伊藤 克己
								川村登志一 倉本 馨

卒業 年次	全 日 制							
	電 気 科		電 子 科		機 械 科		工業計測科	
	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	E <sub>3</sub>	D <sub>1</sub>	D <sub>2</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	I
41	大田 健	大田 健		角田 秀夫	鈴木 治郎	横山 実		中田 勇
	石附 正			印宮 登	渡辺 高幸			莊司 仁
42	松岡 三夫	加藤 栄治	宮崎 登	白川光太郎	川島 純一	伊藤 克己		大江 康男
	原 邦男		烟山 昭一	平賀 徹		川田 純		新山 恒夫
43	斎藤 成信	中村 広幸		桜井 松治	菊地 諒	斎藤 広吉		渡辺 太
	和田 真一			杉本 好造				
44	中村 隆一	中田 勇		高村 広昭	見崎 正行	横山 実		大江 康男
	赤川富美樹	山越 茂雄		花嶋 秀年	菊嶋 和則	岡田 和恭		由井 康雄
45	宮崎 登	加藤 栄治		白井光太郎	川島 純一	松岡 三夫	横山 実	
	酒井 明	岡本 清次		松村 雅之	小川 晴夫	小野 喜之	鳥飼 洋	
46	大田 健	中村 広幸		白井光太郎	高村 広昭	石川 孝志	伊藤 克己	
	川本 敏	秋山 清隆		石橋 和夫		田畠 有三	阿部 俊	
47	鈴木 治郎	渡辺 太		見崎 正行	中村 隆一	大江 康男	山田 宏明	
	大橋富士人	山田 宏巳		早坂 幸雄	持木 文男	谷田部 宏	船田 嘉章	
48	宮崎 登	加藤 栄治		松岡 三夫	川島 純一	大湯 幸夫	横山 実	
	山内 利夫	尾身 栄一		日野 一武	渡辺 敏章	林 達也	大羽 克己	
49	間辺幸三郎	高橋 源八		白井光太郎	大谷 稔	高村 広昭	中村 広幸	
	山口 孝博			高橋 康一	岡田 孝治		石塚 仁史	
50	高橋 源八	中村 隆一		見崎 正行	前嶋 万人	大湯 幸夫		
	高瀬 裕司	杉浦 義彦		大谷 茂	佐藤 仁	高瀬 勝義		
51	宮崎 登	鈴木 博		五十木基晴	大江 康男	横山 実		
	平井 広史	神田 庄一		柳川 守	吉田 邦男	池田 邦明		
52	間辺幸三郎	高村 広昭		菊地 諒	大谷 淳	榎 将		
		大塚 徹		村上 裕一	前嶋 宏二	海川 次郎		
53	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	宮本 治	大湯 幸夫		
	後野 明仁	相川 次男		秋山 益満	清水 敏久	本間 昭伸		
54	宮崎 登	田上 光治		前嶋 万人	大谷 稔	横山 実		
	箱田 浩二	吉田 俊司		三輪 浩康	山際 康之	平澤 輝男		
55	松岡 三夫	津村 栄一		菊地 諒	高村 広昭	榎 将		
	石井 和之	柳原 俊行		山田 富夫	福川 秀勝	小林 正一		
56	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	林 幸男	横山 実		
	鈴木 幸治	山崎 育昭		鈴木 昭広	新谷要次郎			
57	斎藤 広吉	則友 克敏		前嶋 万人	生熊 勝彦	山田 宏明		
	滝沢 聰	天野 裕一		平沢 一寿	今尾 裕	早坂 勝浩		
58	鈴木 治郎	津村 栄一		見崎 正行	人見 芳行	山路 雅一		
	福原 幸規	木村 武晴		山崎 誠人	富井 清隆	江部 智治		
59	鈴木 博	高村 広昭		向芝京京太	石川 孝志	横山 実		
	浅田 直樹	龜岡 和裕		大曾根康史	土屋 岳	鈴木 久郎		
	在藤 和幸	星野 雅幸		松田 和哉	松本 剛	鈴木 正成		
60	斎藤 広吉	大田 健		渡辺 太	前嶋 万人	小峯 龍男		
	青沼 孝一	宮崎 佳之		安井 哲也	染野 明	猪鼻 一芳		
	深見 孝一	野本 浩		石井 後一	立木 孝夫	岩崎 道義		

卒業 年次	全 日 制							
	電 気 科		電 子 科		機 械 科			
	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	D <sub>1</sub>	D <sub>2</sub>	M <sub>1</sub>			
61	津村 栄一	鈴木 治郎	見崎 正行	生熊 勝彦	宮本 治			
	中村 登	西井 光利	鳴島 浩	大和田 誠	新井 智也			
	河又 信司	亀田 秀明	増喜 太郎	松下 慎一	山岸 岳人			
62	斎藤 広吉	渡辺 太	中村 隆一	妹尾 敬	大湯 幸夫			
	石田 亮	館澤 直紀	豊島 徹朗	寺島 大	村井 潤			
	近藤 大輔	木村 宏	田中 篤史	児玉 泰輝	山本 克郎			

卒業 年次	全 日 制				
	普 通 科				
	L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>3</sub>	L <sub>4</sub>	L <sub>5</sub>
27	青木 成宗				
	新井良二郎				
28	吉田 孝俊				
	諸橋 弘之				
29	宮本 敏雄				
	川西 康夫				
30	平野 三郎				
	大森 雄一				
31	佐藤 吉弥				
	黒岩 藩				
32	大久保芳隨				
33	神庭 明				
34	伏見栄次郎				
35	大久保芳隨	北原 泰彦			
	鈴木 恭雄	前嶋 万人			
36	神庭 明	大渡 正治			
	相川 祐三	植田 正昭			
37	伏見栄次郎	吉田 孝俊			
	五島 奉文	藤田 明也			
38	大久保芳隨	伏見栄次郎			
	加藤 計夫	我妻 功規			
39	神庭 明	板垣 光夫			
40	吉田 孝俊	伏見栄次郎	平野 三郎		
	渡辺 貞綱		高崎 新平		
41	大渡 正治	杉野 良知	石川 孝志	大久保芳隨	
	草間信一郎	野村 仁	村田 陽一	松井 索	
42	中島 輝夫	山田 宏明	磯部 昭二	白川 守昭	
	光木 保臣	戸江 栄一		大館 敏夫	
43	神庭 明	石川 孝志	板垣 光夫	吉田 孝俊	
	上原 博通	宮沢 秀実	六反田和幸		

卒業 年次	全 日 制				
	普 通 科				
	L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>3</sub>	L <sub>4</sub>	L <sub>5</sub>
44	山田 宏明	磯部 昭二	中村 圭佑	大久保芳随	
	中村 哲	杉山 行男	渡辺 洋一	木伏 明人	
45	中島 輝夫	五十木基晴	則友 克敏	白川 守昭	
			菱田 豊彦		
46	杉野 良知	樋 将	板垣 光夫	高久 広毅	茂木 雅博
			本居 幸治		嵯峨崎孝吉
47	大久保芳隨	磯部 昭二	斎藤 成信	高久 広毅	
		三宅 清	浅見 正一		
48	中島 輝夫	人見 芳行	則友 克敏	白川 守昭	
	明石 弘一		木村 晴彦	佐藤 孝雄	
49	杉野 良知	板垣 光夫	石川 孝志	茂木 雅博	
	半田 孝	中台 淳一	新井 建也	藤田 清	
50	杉野 良知	磯部 昭二	斎藤 成信	高久 広毅	山田 宏明
	黒田 正人		川島 正春	古城 仁	秋山 公一
51	石川 孝志	則友 克敏	人見 芳行	松岡 三夫	林 幸男
	松丸 昭彦	安藤 政旦	石井 正一	種田 光利	柴山 仁
52	神庭 明	白川 守昭	板垣 光夫	中村 広幸	茂木 雅博
	増田 桂一		小野木広行		石渡 上
53	杉野 良知	中村 圭佑	松岡 三夫	高久 広毅	斎藤 成信
		目黒 香一	松岡 俊和	相原 浩一	遠藤 史郎
54	石川 孝志	則友 克敏	磯部 昭二	生熊 勝彦	板垣 光夫
	宮木 真人		小山 洋一	小出 修男	坂本 尚季
55	大江 康男	斎藤 成信	人見 芳行	林 幸男	茂木 雅博
	本橋 功次	花房 勤	貴田真一郎	瀬賀 幸一	生方 健二
56	五十木基晴	中村 圭佑	宮本 治	高久 広毅	白川 守昭
	大館 昭彦	沢田 勉	吉水 雅彦	糸川 剛	道伝 弘昌
57	大谷 稔	田上 光治	磯部昭二	石川 孝志	板垣 光夫
	木村康二郎	山瀬 智晴	小林良太郎	小野寺智幸	飯塚 美治
58	大江 康男	石井 和之	高村 広昭	樋 将	松岡 三夫
	岩本 健	及川 俊也	飯田 公司	岩井 厚	長堀 岳治
59	宮本 治	吉場 章二	高久 広毅	大谷 稔	白川 守昭
	鈴木 幹也	内藤 瞬	松島 克幸	藤原 康泰	加藤 丈津洋一
60	下間 靖浩	中島 忠彦	野村 英道	渡邊 泰幸	
	山田 宏明	人見 芳行	林 幸男	磯部 昭二	山崎 晴康
61	宮田 實	高田 宏	大山 真一	小宮山敏樹	今中 繁義
	向 格次	史春	京極	瀬原 優	朝徳

卒業 年次	全 日 制						
	普 通 科						
	L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>3</sub>	L <sub>4</sub>	L <sub>5</sub>	L <sub>6</sub>	
61	古城 仁	則友 克敏	田上 光治	槻 将	吉場 章二	飯島 稔	
	小俣 肇一 藤森 勝己	海老澤 浩 西木 章員	青木 服部 義郎	規夫 志村 祐幸	見田慎也 山田 賢二	木齊 央 山田 安達	三博 横田 昇
62	白川 守昭	向芝 京太	高久 広政	齋藤 成信	平山 桂樹		
	大畑 郁夫 渋谷 和彦	佐々木 徹 森田 正明	佐藤 賢智 永井 幸人	高橋 平石 真理行	宏明 塙田 乙 長谷川 一之		

# 同窓会の

# 活動報告

## 昭和61年度 事業報告

事業種別	日時・場所・内容	出席者等
総会	昭和61年6月21日(土) 於:小石川校舎実演室 ○講演「高等学校長在職当時の思い出」望月直文元校長 ○懇親会 於:後楽園会館	会員 48名 来賓 15名 教職員 25名
同窓会誌の発行	同窓会誌「朋友」1986年版の発行(昭和61年6月21日)クラス委員名簿第9回改訂を含む	
教職員連絡会 クラス委員会(合同)	昭和61年10月18日(土) 於:後楽園徳亭 ○卒業生招待会(ホームカミング)等について討議 ○クラス会の開催状況等について討議	教職員 16名 クラス委員 4名 幹事 9名
新会員説明会	昭和62年3月9日(月) 於:小石川校舎体育館 ○新卒業生に高等学校同窓会の現状説明	終業式場にて
新クラス委員懇談会	昭和62年3月9日(月) 於:小石川校舎 ○新クラス委員となる人と幹事の懇談会 ○高等学校同窓会への積極的参加要請他	教職員 2名 新クラス委員 18名 幹事 7名
卒業記念品の贈呈	昭和62年3月11日(木) 於:卒業式 ○証書挿み・南部鉄製鍵型栓抜	卒業式に印宮、松下、野瀬参列
クラス委員名簿の整備	昭和61年5月:委嘱状と承諾書の発送・回収	
クラス会開催の補助	クラス会を開催するクラスに補助金として5,000円を支給	37クラス
準会員活動援助(校友会準会員事業基金の運用)	昭和61年9月25日(木) 於:小石川運動場 ○体育祭のクラス別対抗表彰・全員に参加賞の配付	印宮同窓会長
	昭和62年2月16日(月) 於:江戸川区文化センター ○第8回文化講演会「スポーツと人格」志生野温夫氏	印宮同窓会長
	昭和62年3月9日(月)於:小石川校舎体育館終業式場にて ○クラブ活動優秀者の表彰	
卒業生招待会の協力	昭和61年11月1日(土) 於:後楽園会館 ○卒業生招待会(ホームカミング)の協力(昭和17年~昭和30年迄の卒業生)	出席者総数 240名

昭和61年度決算報告 自昭和61年4月1日  
至昭和62年3月31日

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
入会金 541名×3,600円	1,947,600	事業費 総会費 クラス委員会費 クラス会補助金 卒業記念品費 同窓会誌製作発行費 教職員連絡会費	1,632,430 645,920 104,100 185,000 159,000 426,090 112,320 109,750 55,240 65,000 400,000
補助金	57,770		
利子・配当金	247,973		
雑収入	83,000		
小計	2,336,343	小計	2,262,420
前期繰越金	121,227	次期繰越金	195,150
合計	2,457,570	合計	2,457,570

## 高等学校

名誉会長 吉田 宇一  
会長 印宮 登  
副会長 見崎 正行  
" 須賀 寛光

## 61・62年度役員

職務	氏名	卒年	居住地
幹事	豊田 健造	18	小平市
"	阿久津 功	23	市川市
"	今田 正	24	武藏野市
"	鈴木 治郎	24	新座市
"	宇野 敬助	27	柏市
"	柴山 茂	30	横浜市
"	小長谷 登	31	横浜市
"	松下 祐輔	34	朝霞市
"	日比野 靖昌	36	文京区
"	大塚 忠克	39	入間郡
"	北尾 義弘	40	相模原市
"	印宮 登	41	江戸川区
"	向 芝 京	48	新座市
"	平野 修一	49	越谷市
"	古城 仁	50	川崎市
"	鈴木 元樹	54	市川市
会計監査	横山 真一	27	船橋市

## 同窓会役員

参与 鶯見 篤 23年卒  
" 谷沢 正一郎 23 "  
" 野瀬 健一 27 "  
" 加藤 康太郎 29 "  
" 賀 張 雅弘 31 "

## 62・63年度役員(案)

職務	氏名	卒年	居住地
幹事	佐々嶋 長治	17	北区
"	安田 正男	18	北区
"	池ヶ谷 道夫	20	市川市
"	清水 岩生	20	世田谷区
"	海老原 宮一	23	浦和市
"	中村 広幸	24	市川市
"	北風 康夫	29	大田区
"	間川 清太郎	29	飯能市
"	見崎 正行	35	秦野市
"	萩原 宏芳	35	川口市
"	石崎 泰司	37	江戸川区
"	渡辺 敏章	48	北葛飾郡
"	須賀 寛光	49	越谷市
"	山口 孝博	49	町田市
会計監査	加藤 栄治	30	川越市

## 財産目録 昭和62年3月31日現在

項目	内容	金額
基本財産(1)	東京電力社債	3,000,000
基本財産(2)	中期国債ファンド	1,000,000
基本財産(3)	中期国債ファンド	400,000

## 昭和62年度 事業計画(案)

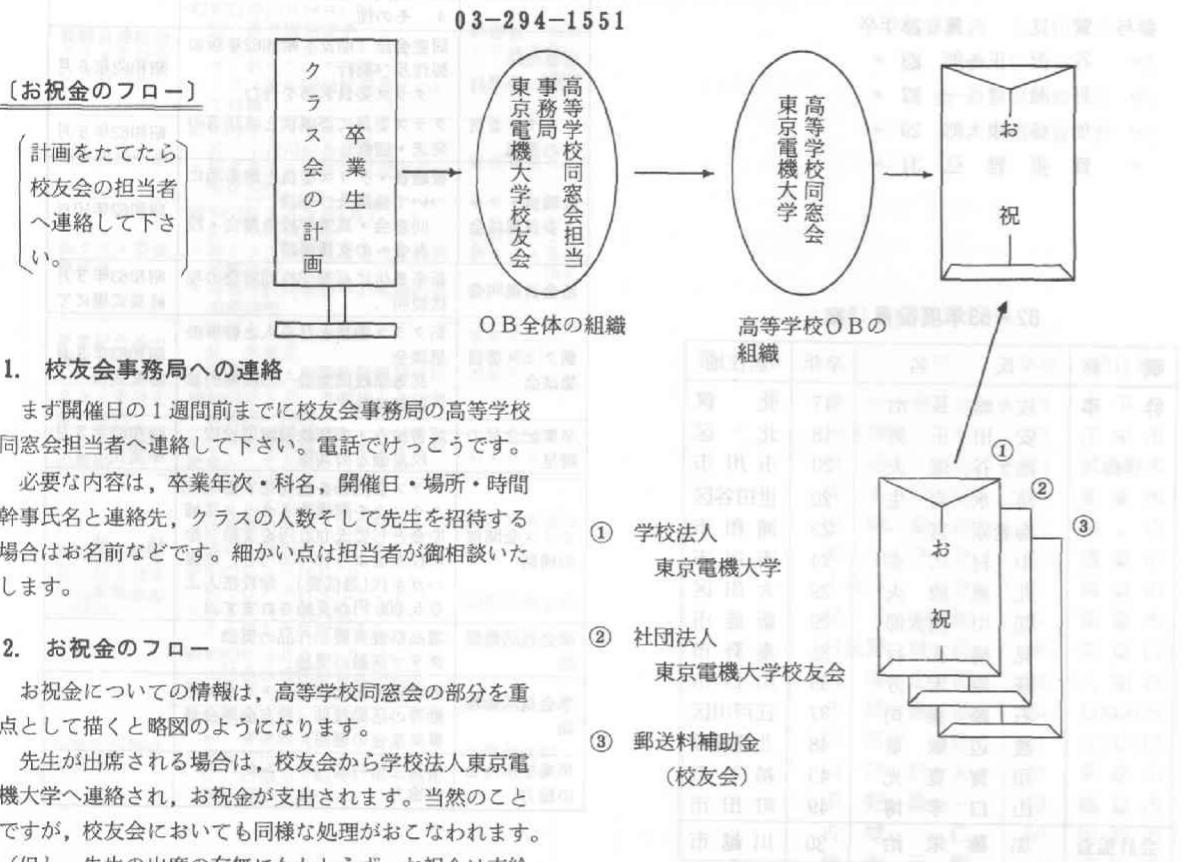
事業種別	内 容	日 程
総会	於:小石川校舎 実演室(総会), 後楽園会館(懇親会) 1. 昭和61年度事業報告, 決算報告, 会計監査報告並びに承認 2. 昭和62年度事業計画案, 予算案の審議並びに承認 3. 役員の改選 4. その他	昭和62年 6月27日(土)
同窓会誌「朋友」発行	同窓会誌「朋友」昭和62年版の製作及び発行 クラス委員名簿を含む	昭和62年 6月
クラス委員の委嘱	クラス委員に委嘱状と承諾書の発送・回収	昭和62年 5月
教職員・クラス委員懇談会	教職員・クラス委員と諸事項について協議及び懇談 同窓会・高等学校後援会・校友会への支援要請	昭和62年10日
新会員説明会	新卒業生に高等学校同窓会の現状説明	昭和63年 3月 終業式場にて
新クラス委員懇談会	新クラス委員となる人と幹事の懇談会 高等学校同窓会への積極的参加要請他	昭和63年 3月 終業式後
卒業記念品の贈呈	証書挿み・南部鉄製鍵型栓抜 校友会との共催	昭和63年 3月 卒業式
クラス会開催の補助	クラス会を開催するクラスに補助金として5,000円を支給 (他に校友会より10,000円と, 往復ハガキ代(通信費), 学校法人より5,000円が支給されます。)	随時
準会員活動奨励	電高祭優秀展示作品の奨励 クラブ活動の奨励	
準会員活動援助	体育祭・文化講演会・クラブ活動等の活動援助(校友会準会員事業基金の運用)	
卒業生招待会の協力	卒業生招待会(ホームカミング)の協力	

昭和62年度収支予算(案) 自昭和62年4月1日  
至昭和63年3月31日

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
入会金 519名×3,600円	1,868,400	事業費 総会費 教職員・クラス委員懇談会費 クラス会補助金 卒業記念品費 同窓会誌製作発行費 会議費 事務通信費 諸費用	2,120,000 800,000 170,000 250,000 170,000 650,000 10,000 70,000 130,000 80,000 90,000 63,550
補助金	20,000		
利子・配当金	300,000		
雑収入	100,000		
小計	2,288,400	小計	2,483,550
前期繰越金	195,150	次期繰越金	0
合計	2,483,550	合計	2,483,550

# クラス会お祝金について

同窓会あるいは校友会が発展する基礎は、クラス会が活発におこなわれることだといわれています。高等学校同窓会においても、卒業生の母校に関連する活動を支援するものとして、クラス会を開く方々へお祝金という形をとて、ささやかですが御協力をさせていただいております。



## お祝金額

高等学校同窓会	5,000円
東京電機大学	5,000円
東京電機大学校友会	10,000円

\*お願い

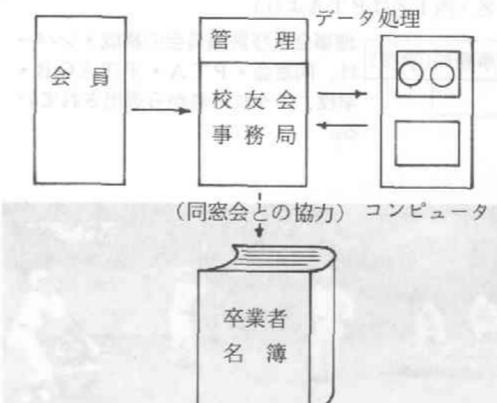
クラスの住所録を必ず校友会へお送り下さい。

お祝金の支給状況 (件)			
昭和52年	28	昭和57年	40
53	34	58	24
54	33	59	21
55	23	60	37
56	25	61	37

# 名簿の整備・校友会案内

同窓会が充実しているかどうかは、その名簿を見ればわかるといわれています。名簿の充実している会は、その活動も活発です。

本会の名簿は、最近では57年度に発行いたしました。本年も次の様な名簿の整備と充実を計画しておりますので宜しく御協力をお願い致します。



## 1. 原簿の整備

本会の会員名簿の原簿はデータ処理を迅速、かつ、正確に行なうためコンピュータによって処理されています。同窓会は会員の皆様から住所、勤務先などの変更届が出されると、直ちに原簿であるマスターテープを修正し、つねに最新のデータが格納されるよう努めています。

**住所・勤務先** その他に変更がありましたら、必ず校友会に御一報願います。また同様に、知人、友人につきましても現在発行している名簿より、変更されていましたら、校友会に御連絡下さい。

東京都千代田区神田錦町1-4  
東京電機大学校友会内 高校卒業者名簿係  
TEL 03-294-1551 (内線5550)

## 2. 名簿の頒布

57年度に発行した同窓会名簿を購入御希望の方は、代金2,500円(送料は別途300円)を添えて現金書留でお申し込み下さい。

なお、残り少なくなっておりますので、なるべく早めにお申し込み願います。

## 校友会費を納めましょう!

高校同窓会の行事や学園の近況などは工学情報に記載されます。お手元に届いていない方は、下記のとおりお申し込み下さい。また、クラス会開催の場合、祝い金等の制度もありますので名簿編さん(住所・勤務先)とも併せてご協力くださいま

すようお願いいたします。

記

3年分会費	6,000円
5年分会費	10,000円
終身会費	60,000円

(会費には工学情報講読料が含まれています。)

### ◎ 納入方法

1. 郵便振替

2. 現金書留

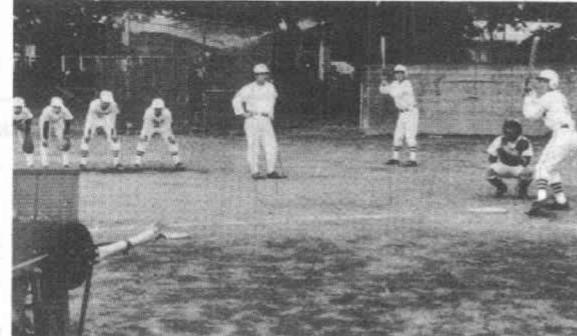
3. 銀行口座自動引落制度

校友会は、皆様からの会費によって運営されております。財政的な基盤が確立しないければ十分な校友会活動もできません。ぜひとも多数の卒業生に会員になっていただき、校友会並びに母校の発展充実に一段のご支援をお願い申し上げます。

## 後 援 会 活 動

高校後援会は昭和54年12月、学校、同窓会、PTA、およびPTA・OB等各意の努力と熱意により発足し、会員の募集等を行い具体的活動に入り満5年を数えるに至りました。クラブ活動の援助として現在は運動場への

車代等にすぎませんが、昨年よりは今年、今年よりは来年と、すこしでも生徒の活力を増大するため努めて行きたいと考えて居ります。現在後援会の組織図は下記のとおりです。



\*今後の後援会活動を活発にする為に機会をとらえ下記  
趣旨の入会即進のお願いもいたして居ります。1人で  
多く会員への参加勧誘をお願いいたします。

「後援会入会のお願い」

新緑の候 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃 東京電機大学高等学校の教育につきましては  
格別のご理解を賜り衷心より御礼申し上げます。

ご存知のように、学校ではかねてより生徒の人格形成と体力の増進を目指しご指導をされております。その重要な一つの方策として課外の部活動に力を入れておられますが、先生方の丹精なご指導で着実にその成果をあげられ、最近は、特にいくつかの運動部で目ざましい進歩が見られ、全国大会もあと一步という所までこぎつけておられますことはご同慶の至りに存じます。

然しながら、本校の課外活動についての環境は必ずしも恵まれたものとはいえない状況で、学校もPTAも現在出来る限りの援助をされておられますが、それにも自ずと限度もあり、顧問の先生方や生徒諸君もかなりの出費を余儀なくされた状況で練習や試合に参加しているのが現状であります。

そこで、せめてその経済的な側面だけでもお力になりたいという気持から、学校のご諒解を得まして、去

54年12月5日に東京電機大学高等学校後援会が設立されました。

つきましては皆様方にも是非、この趣旨にご賛同をいただき一人でも多くご加入をいただき一日も早く生諸君の経済的な負担を軽くし、クラブ活動に専念していただける日の実現を期して力を合わせて参りたい存じます。1人1人の力はたとえ小さくとも結集すれば大きな力になります。そしてそれがやがては学校支える強い力になることを確信いたします。

何卒各位のご協力とご理解を賜り後援会に入会して  
ただきますようお願い申し上げます。

昭和62年6月

東京電機大学高等学校後援会  
会長 池ヶ谷道夫

有志各位殿

## ● 編集後記 ●

朋友の編集を記念号（創刊号）から担当させていただいているが、今回は今までのかたちを打ち破って、より見やすく、より読みやすくする方向で企画をしました。その結果、ご覧のように写真でページを埋めているところもあります。これに関してご意見、ご希望をお聞かせ願えれば幸です。

今回、名誉会長を始めとして、学内の諸先生方、卒業生の方々のご協力とご援助をいただきまして、ここに発刊することができました。この場をかりまして厚くお礼申し上げます。

〔編集担当〕 鶴見 篤・柴山茂男・石崎泰司

向芝京太・渡辺敏章・須賀寛光

昭和62年6月27日 発行（非賣品）

〔編集兼發行所〕

東京電機大学高等学校同窓会

東京電機大学高等学校問題集

東京電機大學校友會內

電話：03-294-1551（代）

東京電機大学高等学校

東京電機大学高等学校  
住所：東京都文京区後楽1-7-

# 東京電機大学高等学校校歌

力強く  $\text{♩} = \text{約} 104$

土信時善磨潔作詞  
作曲

一、都心の天地は高くひろく  
かがやき集る時代の文化  
科学と技術の上に立ちて  
真理を仰げば富士に雲なく  
勤労の道に希望あり

二、創意の火花は潔くさえて  
平和のいとなみ昼夜絶えず  
社会の進歩と共に享けて  
静かにたどれば回路正しく  
新たなる世界開けたり

三、歴史に栄ゆる電機学園  
高校我等の負ひゆく使命  
親愛ひとしく競ふ意氣に  
相呼び相寄る自治のよろこび  
協同の歩み力あり